

普及活動情勢報告（平成26年12月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

苺のシーズンになりました!! 目慣らし会で規格の徹底などを確認。



12月9日、JA高知市介良支所苺部が目慣らし会を開催し、組合員、関係機関など25名が参加しました。

現地巡回では、各圃場における栽培管理等の検討や今後の出荷予想などを確認しました。目慣らし会では、実際に苺を並べて、市場関係者を交えた検討を行い、規格の徹底や品質について確認しました。普及所、JAからは、「炭酸ガス施用の取り組み」についての事例紹介や事業説明、「病虫害対策」についての説明をしました。

今年は、炭そ病の発生が定植後も続いている所もありますが、普及所はJA等と連携して巡回指導等で対応していきます。

早くもせん定の時期になりました!! ナシの品質向上を目指して頑張ろう!!



12月10日、JA高知市三里果樹部会のナシのせん定講習会と研修会が行われ、組合員8名と関係各機関5名が参加しました。せん定は部長の実演から始まり、各々分かれて一本の木を仕上げました。

研修会では、普及所からはカイガラムシの防除について、JAからは、防除暦について説明を行い、30代の若手生産者を中心に活発な質問が出されました。

普及所は今後も関係各機関と連携しながら、ナシの栽培技術の向上を目指していきます。

安定多収は苗作りから…JA高知市稲作部年末研修会



12月11日に研修会を開催し、48名の稲作農家が参加しました。普及所からは本年度の作柄、実証ほの成績、白未熟対策についての県での品種開発の取り組みについて説明したほか、コストのかからない増収・高品質化の取り組みとして、優良苗の乾燥サンプルを用いて健苗育成についての講習を行いました。本年は稲作暦を改訂し、記載されている育苗方法と併せ、苗の実物を確認することでイメージがわかりやすかったとの声が聞かれました。

普及所は今後も地域の稲作経営の支援を行っていきます。

寒さに負けない奴ネギ作りへ向けて！



12月12日、JA高知市城北園芸部奴ネギ部会ではこれからの厳寒期に向けて、現地検討会を開催しました。会には生産者・関係機関を含めて11名が出席しました。

現地巡回では各生産者の栽培している品種やその生育、栽培管理などを確認しながら、普及所、JAから各ほ場での栽培管理についてアドバイスをを行い、品質向上への取り組みを進めました。

今後も関係機関と連携しながら奴ネギの収量増および品質向上に向けて取り組んでいきます。

南海トラフ地震に備えてGOOD!! 「燃料タンクの地震・津波対策研修会」を開催



12月15日、高知市、JA高知市、JA高知春野とともに、近い将来発生が予想される南海トラフ大地震に備え「燃料タンクの地震・津波対策研修会」を開催しました。普及所は高知市と連携し、研修会の開催に向けた企画調整を行いました。

研修会には園芸農家や関係機関28名が参加し、高知大学原忠教授から東日本大震災での被害調査に基づいた対策の講演、産地・流通支援課から県の支援策について説明がありました。参加者は、真剣な趣で地震・津波被害の実態や対策等について受講しました。

今後、普及所は地震や津波発生時の農業用燃料タンクによる二次被害発生リスク軽減に向け、関係機関と連携した取り組みを進めます。

集落営農で初めての“ソバ”を収穫！ ソバから始まる新たな取り組み



共同作業場で説明する普及員

平成26年4月に設立された「久万川地区集落協定営農組合」では、耕作放棄地対策を兼ねた共同作業の取り組みとして、ソバ栽培を始めました。今年の夏は雨が多く播種に苦労しましたが、何とか収穫に至ることができ、12月17日に最初の製粉作業をおこないました。今後はこの冬に開催される地域のイベント等でソバや加工品などの提供をすることとしています。

普及所では、集落営農の取り組みを定着拡大させるため、集落営農組織が取り組むことのできる新たな支援策の説明を行うとともに、ソバ栽培をきっかけとして、地域の宿泊施設等と連携した新たな品目の共同栽培の取り組みを促しました。

今後は、共同栽培とソバの加工も含めて、引き続き集落営農の活動を支援していきます。

今作の課題を次作に活かす!! ショウガの農薬・肥料研修会を開催。



12月18日、JA高知市丸朝生姜生産組合が支部合同研修会を開催し、組合員39名が参加しました。

研修会では、まず普及所から、①貯蔵ショウガの品質安定対策調査結果、②病害虫対策試験結果について説明しました。その後、農薬・肥料メーカーから、土壌消毒資材・肥料資材等についての研修がありました。今年の露地ショウガ栽培では、夏場の天候等の影響も受け、病害が多く発生したため、多くの参加者が真剣な眼差しで研修を受けました。

今後、普及所は、生産組合・JA等と連携して課題解決に向けて、活動支援をしていきます。